

149 ヒメマスオガイ

(オオノガイ科)

兵庫県ランク:B

Cryptomya busoensis

環境省ランク:VU

種の概要

北海道から九州の内湾の干潟や浅海の泥・砂泥底に生息する。殻長15～20mm程度の長卵形で、殻質は薄い。後端は裁断状で、両殻の間は開く。殻は濁白色で、淡い灰褐色の殻皮を被る。クシケマスオガイ(貝類Bランク)よりも海寄りに生息する傾向がある。近年における生息情報は乏しく、内湾の埋め立てや護岸、汚染などにより、各地で危機的な状況になっていることで、情報量が少ないと推察される。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	○	○		○

県内分布

西宮市、芦屋市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。2013年に芦屋市芦屋浜の干潟で生貝が西宮市貝類館職員により記録された。芦屋浜や近隣の西宮浜では初秋に青潮が時折発生するなど、時期的に劣悪環境になることで、底生生物にとっては致命的なこともあり、生息状況としては楽観視できない。干潟生物の比較的豊富な播磨西部においては、死貝すら確認できていない。淡路島中部では、潮下帯でのみ生貝が得られている。

保護上の留意点

内湾環境下にある砂泥や泥干潟を存続させ、周辺からの汚濁の流入を防ぎ、同時に干潟自体を極端な貧酸素状況などにしない海岸構造を維持または造成する。



写真提供：川淵千尋



【執筆者】 増田修